

知財業務を劇的に変える：生成AI導入の成功戦略と先進事例

先進2社の活用事例比較

オムロン株式会社



RAG技術による 高度なAIエージェント



AWS基盤の「RD Buddy」を構築し、特許庁の全データと連携。

先行技術調査や発明説明書作成の工数を50%削減。

50%削減

株式会社島津製作所



プロンプトドリブンな 業務改革



熟練者の思考プロセスをプロンプト化。

年間8,000万円の外部委託費削減と、特許スクリーニング手作業の90%削減を達成。

90%削減

AI導入を成功に導く4つの要因



経営層の コミットと 現場の主体性

トップダウンの推進力と、知財専門家が自ら活用を主導するボトムアップの両立が不可欠。



セキュアな クローズド 環境

未公開の発明情報を扱うため、社内専用環境やVPCを活した強固なセキュリティ基盤が必要。



Human-in- the-loopの 徹底

AIを万能視せず、最終的な法的判断や品質確認は必ず人間が行う運用ルールを確立する。



業務の棚卸し と形式知化

既存業務を細分化し、どの部分が「プロンプト化（AIへの指示化）」可能かを見極める。

期待される導入効果



工数
半減

圧倒的な効率化と コスト削減

特許調査や書類作成の工数を半減させ、外部委託費用を大幅に圧縮。



高額
業減

知財部門の 高付加価値化

ルーチンワークをAIに任せ、担当者はIPランドスケープ分析などの戦略的業務に集中。



早期
戦力化

属人化の解消と 教育加速

ベテランのノウハウがプロンプトとして共有されるため、若手社員の早期戦力化が可能。

知財AI導入の3ステップ



フェーズ1：基盤構築とPoC (1～3ヶ月)

セキュアな環境を整え、要約や監打ちなどリスクの低い特定業務で効果を検証。



フェーズ2：定型業務の プロンプト化 (3～6ヶ月)

熟練者の思考をプロンプト化し、明細書ドラフト作成などの定型業務へ適用範囲を拡大。



フェーズ3：社内データ連携と 全社展開 (6ヶ月～)

過去の社内データと連携（RAG構築）させ、知財部だけでなく研究開発部門へもAIを展開。